



新年を迎えて

茨城県知事
茨城県統計協会総裁

岩上二郎

明けましておめでとうございます。

ことしもまたひとつ、長年の願いがかなえられる年であります。

それは、水戸射爆場が早々に返還されることになっているからです。

70年代は、東太平洋時代とか、北関東時代といわれていますが、その幕あけを鹿島の開発によって告げ、いままた、水戸射爆場が返還されることによって、その跡地の開発は、北関東時代を開く「かなめ」として大きな期待がかけられています。

その意味において、新しい年、昭和48年は、この跡地を、いかに開発すべきか、英知をあつめ、県民のみなさんの総意を結集して、その方向づけをなすべき年であると考えます。

また、ことしは新総合振興計画の第三年次として、「緑と空間と人間集団の調和」の実現を目指し、豊かな自然の保護と環境整備のため県土にグリーン大作戦を展開し、あるいは教育文化の向上と福祉の充実に、さらには郷土の繁栄を培う経済開発に、県民のみなさんとともども鋭意、取り組んでいく決意であります。

これらの施策の実施にあたりましては、従来の行政とその運営方法について、さらに検討を加え、県民福祉の優先という基本路線を拡張してまいりたいと存じます。

一方、経済の高度成長にともなうひずみとして、発生しつつある交通、物価、過疎、公害等々の問題には強い決意をもって臨み、本県の持つ恵まれた自然環境を保全するとともに、調和のとれた社会の発展を目指してまい進する決意でございます。

今後、これらに関連する諸施策を適切に推進するには、統計資料の高度の活用をはかっていかねばなりません。この複雑多岐化した社会において、統計こそ最も中立的で何人たりともこれを否定することができないものと存じます。

統計は事実を物語るものであり、私たちの生活の道しるべでもあります。

今年は、この重要な意義を持つ統計をさらに整備するとともに、早期利用と統計解析の拡充をはかるため、電子計算機の積極的な使用、あるいは統計の真実性を高めるための統計思想の普及等を強力に進めてまいりたいと思います。

新しい年を迎えるにあたり、緑多い大地と、広大な太平洋を持つこの地に、豊かな文化の花咲く郷土茨城建設の道をまい進することをみなさまにお誓い申しあげ、年頭のごあいさつといたします。

昭和48年元旦